

【配布資料③】**Xリーグ 一連の事案に関する課題認識と今後の対策****1. 本件に対する当協会の基本認識**

今回の一連の事案について、当協会としては、個別の規程違反や各チームに対する処分の問題だけではなく、その過程におけるルール運用、意思決定、加盟チームとのコミュニケーション、対外的な情報発信を含めた、当協会による協会運営全体の問題として受け止めております。

結果として、加盟チームのみならず、ファン、パートナー企業、競技関係者をはじめ、Xリーグを支えていただいている多くのステークホルダーの皆様にご懸念とご心配をおかけし、リーグおよび当協会への信頼に影響を及ぼす事態となったことを、当協会として重く受け止めています。

一方で、個々の事案について当協会が現行規程に基づき判断・対応したことで、一連の対応全体を通じて当協会として改善すべき点あるいは規程等の不備・不十分な点がなかったかということは、分けて検証する必要があると考えています。

当協会としては、必要な改善は行う一方、競技団体の統括団体として判断すべき事項については、自らの規程と手続きに基づき、独立して責任をもって判断していくことが重要であると考えております。

今回の事態を受け、特に以下の点について検証・改善を進めてまいります。

2. 当協会として認識している主な課題**(1) ルールの明確性・予見可能性**

Xリーグにおけるプロ契約選手に関する規程を含め、競技の公平性に直接関わるルールについては、その内容だけでなく、解釈や具体的な運用方法について、加盟チームとの間で十分な共通認識を形成することが重要です。今回の事案を通じて、当協会として行う規程の解釈や運用について、加盟チームおよび関係者に対して、予め、より明確に示す余地があったと認識しております。

また、問題が顕在化した後に新たな制度や運用方針を導入する場合には、その目的、適用範囲、適用条件、既に行われた公式戦との関係について、加盟チームおよび外部の関係者の認識と齟齬が生じないように、より丁寧に説明する必要があります。

今後は、Xリーグにおける重要な競技・登録ルールについて、シーズン開始前の段階でその内容と解釈を明確化するとともに、加盟チームへの説明・確認を行う仕組みを整えてまいります。

(2) 利益相反管理と意思決定の独立性

今回の事案を通じ、当協会の実際の意思決定において利益相反を適切に回避するだけでなく、外部から見ても、当協会による判断の独立性・客観性が担保されていると理解できる制度設計が重要であると改めて認識しております。

今後は、

- ・ 利益相反に該当する可能性がある案件の事前申告
- ・ 利益相反の可能性のある当事者・関係者の当該案件における審議・意思決定からの除外
- ・ 調査機能と意思決定機能の整理
- ・ 懲罰委員会その他第三者的機関の独立性強化
- ・ 意思決定プロセスの記録

などについて、改めて制度として整理いたします。

重要なのは、当協会において実際に公正な意思決定が行われることに加え、そのプロセス自体について外部からも理解可能な状態をつくることと考えております。

(3) 当協会と加盟チームとのコミュニケーション

複数の加盟チームから競技の公平性に関する問題提起がなされ、その後も当協会と加盟チームとの間で認識の差が生じたことについては、リーグ運営におけるコミュニケーションや合意形成のあり方についても検証する必要があると考えております。

リーグ運営において、すべての加盟チームの意見が常に一致することは現実的ではありません。

一方で、重大な問題が生じた際に、

- ・ 「誰が」
- ・ 「どの場で」

- ・ 「どの事実に基づき」
- ・ 「どのような手続きで」
- ・ 「いつまでに判断するのか」



を明確にすることは必要です。

今後は、実行委員会、理事会、事務局、各種委員会それぞれの役割・権限を改めて整理するとともに、重大案件が発生した際の協議・意思決定プロセスを明文化してまいります。

(4) 2026年9月13日の試合中止に至る危機対応

2026年9月13日に開催が予定されていたXリーグプレミア第6節富士フイルム海老名Minnerva AFC対オービックシーガルズの公式戦について、結果として開催することができなかったことを、当協会として重大に受け止めております。

また、公式戦の実施可否という極めて重要な局面において、当協会、両チームの間で共有されている情報や認識に差異が生じたことについては、その経緯を検証し、今後の危機対応に活かす必要があると考えております。

本件については、

- ・ どの時点で
- ・ 誰が
- ・ どの情報を把握していたのか
- ・ どの情報が両チームに共有されていたのか
- ・ 延期・中止・開催についてどのような協議が行われたのか
- ・ 最終的な判断権限がどこにあったのか

を整理し、今後同様の事態が発生した場合の対応ルールへ反映いたします。

特に、公式戦の開催可否に関わる重大事案については、情報共有、協議、意思決定の主体と手順を事前に明確化することが必要であると認識しております。

(5) 対外的な情報発信

当協会として、対外的な情報発信において最も重視しているのは、当協会にとっての都合の良し悪しではなく、確認された事実を正確に発信することであるものと考えます。これは今回の事案を受けて新たに設ける考え方ではなく、従前から当協会が情報発信において重視してきた基本姿勢です。当協会の公式発信は、特定のチームや関係者の考えや主張を代弁するものではなく、当協会として確認した事実に基づいて行うべきものと考えております。

その事実が、仮に当協会自身にとって不都合な内容であったとしても、事実である以上、正しく発信するという姿勢は変わりません。

今回の一連の事案についても、当協会として把握・確認した事実に基づいて情報発信を行ってまいりました。

重大な事案では、限られた時間の中で複数の関係者から情報を収集し、事実関係を確認・整理した上で発信する必要があります。

そのため当協会としては、

- ・ 当協会として確認できた事実
- ・ その時点では確認できていない事項
- ・ 当協会としての判断・見解

を明確に区別して情報を発信することが重要であると考えております。

また、公表後に新たな事実が確認され、それによって既に公表した内容を訂正・補足すべき場合には、速やかにその内容を明らかにすることも当協会の責任です。

当協会としては今後も、誰かの考えや主張に基づくのではなく、確認された事実に基づいて発信すること、そして当協会にとって不都合な事実であっても隠すことなく正しく伝えることを、对外情報発信の基本姿勢として徹底してまいります。

3. オービックに関する問題と富士フイルム海老名に関する問題について

当協会としては、オービックに関する問題と富士フイルム海老名に関する問題は、その事実関係および問題の性質が異なるものであり、それぞれ独立して整理・判断すべきものと考えます。

(1) オービックに関する問題について

オービックに関する問題については、選手契約・登録その他の協会規程に照らした問題として、当協会の規程に定められた手続きの中で、事実認定、審議、判断を行うべき事項です。

本事案については、Xプレミア全11チームの代表者が参加する実行委員会において、本事案への対応を、当協会競技運営規程に基づいて組織した懲罰委員会に一任することを決議しております。

その後、懲罰委員会において、リーニエンシー期間の設定、その後の調査、事実認定、処分内容の決定および対象者への通知が行われております。

当協会としては、これら一連の対応について、現行の当協会競技運営規約に定められた手続きを踏んで進めております。

一方で、今回の事案を通じて、個々の判断や手続きとは別に、その判断基準の基盤となる規程そのものに不備・不十分あるいは不明確な点がなかったかについて検証し、必要に応じて改訂を検討することも必要であると考えております。

具体的には、以下の事項について検証を行います。

- ・ プロ契約選手に関する規定の明確性
- ・ 違反が疑われる場合の調査・確認方法
- ・ リーニエンシー制度を含む懲罰制度のあり方
- ・ 規程違反が確認された場合の処分基準
- ・ 競技結果との関係

その上で、必要があると判断した事項については、次シーズンに向けて規程の改訂を検討いたします。

当協会としては、今回の事案への対応については現行の競技運営規程に従って手続きを進めている一方、その手続きや判断の基盤となる規程自体についても検証し、必要な改善を行うという考えでおります。

(2) 富士フイルム海老名に関する問題について

一方、富士フイルム海老名に関する問題については、公式戦への参加、試合開催に向けたチームの義務、ならびにリーグ・大会運営に関わる問題として整理しております。

本事案については、外部有識者を含み、上記オービックに関する問題とは別の懲罰委員会を組織して審議を行い、当該チーム責任者に対するヒアリングを実施するなど、必要な事実確認を行った上で、処分内容を決定しました。当協会としては、この一連の対応についても、現行の競技運営規程に沿った所定の手続きを踏んで判断を行っております。

その一方で、今回の審議を通じて、懲罰委員会からは、公式戦への参加義務や試合不参加に関する現行の競技運営規程について、今後より明確かつ実効性のある内容とする必要がある旨の提言も受けております。

協会としては、この提言を踏まえ、以下の事項について検証し、必要な対応を進めてまいります。

- ・ 公式戦への参加義務の更なる明確化
- ・ 試合不参加に至った場合の手続き及び取扱いの規定化
- ・ 処分基準の明確化
- ・ 大会運営に重大な影響を与えた場合の責任のあり方

富士フイルム海老名に関する問題についても、今回の処分判断は現行の競技運営規程に基づく所定の手続きを経て行われた一方、今回の事案によって明らかになった規程上の課題については、懲罰委員会からの提言も踏まえ、必要な改訂を進めていく考えであります。

(3) 二つの問題の関係について

オービックに関する問題と、富士フイルム海老名が公式戦に参加しなかったことは、それぞれ別の事実関係と規程に基づいて判断されるべき事項であり、当協会としては、一方の問題の存在が、もう一方の行為を当然に正当化するものではないものと考えております。

当協会としては、それぞれの問題について、

- ・ 事実関係
- ・ 適用される規程
- ・ 判断主体
- ・ 判断基準

を明確にした上で、それぞれ独立して検証・判断することが必要であると考えており、現に判断をしてまいりました。

また、今回の二つの事案を通じて明らかになった制度上・規程上の課題については、それぞれ個別に検証するとともに、リーグ全体のルール体系として必要な見直しを進めてまいります。

4. 競技の公平性について

当協会の競技統括団体として最も重要な責務の一つは、すべての加盟チームが共通のルールのもとで競技を行う環境を整えることです。

今回指摘されているプロ契約選手に関する問題についても、個別チームの規程違反の有無だけではなく、

- ・ ルールそのものが十分明確であったか
- ・ 全チームに同じ基準が適用されていたか
- ・ 協会として適切に確認・管理できていたか
- ・ 違反が確認された場合の懲罰と競技結果の関係が整理されていたか

という制度全体の観点から検証する必要があると考えています。

今回の検証を踏まえ、次シーズンに向けて、選手登録、契約区分、確認方法、違反が確認された場合の取扱いまでを一体として見直してまいります。

また、競技の公平性については、単にルールを定めるだけでなく、そのルールが各チームに等しく適用され、遵守状況を確認できる仕組みを構築することが重要であると考えております。

5. 今後実施する改善

今回の事態を一過性の対応で終わらせるのではなく、当協会として制度・運営の両面から改善を進めてまいります。

(1)ルール・競技運営

- ・ 重要規程の明確化
- ・ シーズン前の全チームへの説明・確認
- ・ 選手登録・契約情報の確認体制強化
- ・ 規程違反時の処分基準および競技結果の取扱いの整理

(2)ガバナンス

- ・ 利益相反管理ルールの明文化
- ・ 調査・審議・意思決定機能の整理
- ・ 第三者性を有する委員会機能の強化
- ・ 重要案件の意思決定プロセスの記録

(3)加盟チームとの関係

- ・ 実行委員会等の役割・権限の再整理
- ・ 重大案件発生時の協議・意思決定フローの明文化
- ・ 当協会と加盟チーム間の情報共有ルールの整備

(4)危機対応・情報発信



- ・ 重大事案発生時の危機対応フローの整備
- ・ 事実確認担当・意思決定担当・情報発信担当の明確化
- ・ 公表前の事実確認・承認プロセスの整理
- ・ 公表後に新たな事実が確認された場合の訂正・補足ルールの整備

6. 協会としての総括

今回の事案を、「特定のチームが起こした問題」として終わらせるべきではないと考えております。

個別の規程違反や試合不参加については、それぞれの事実関係と適用規程に基づき、定められた手続きの中で判断する必要がございます。

その一方で、一連の問題が公式戦の中止や加盟チーム間の大きな対立にまで発展したことについては、当協会自身もその運営を検証し、必要な改善を行う責任があると認識しております。

今回の事態を通じ、改めて重要であると認識しているのは、

- ・ ルールを明確にすること
- ・ すべてのチームに公平にルールを適用すること
- ・ 独立性・客観性のある手続きで判断すること
- ・ 加盟チームとの情報共有と意思決定プロセスを明確にすること
- ・ 確認された事実を、当協会にとって有利・不利を問わず正確に発信すること

です。

当協会として今回の事態を正面から検証し、必要な制度・運営の改善を実行するとともに、今後の公式戦、大会運営を通じて、一つひとつ信頼を積み重ねてまいります。また、単に信頼を回復するための取り組みで終わらせるのではなく、Xリーグがより開かれ、より信頼され、そして、より多くの方に応援していただけるリーグへと変わっていくための転機にしたいと思っています。ファンの皆様、パートナー企業の皆様、選手・チーム関係者をはじめ、Xリーグに関わるすべての皆様とともに、より良いリーグをつくっていきたいと考えています。

以上



【問い合わせ先】

一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会

広報 松元竜太郎

email : info@xleague.jp